

特集展示

# 新時代の山城鍛冶

三品派と堀川派

Yamashiro Smiths of the New Era: Blades of the Mishina and Horikawa Schools January 2-March 23, 2025

2025年1月2日[木]—3月23日[日] 会場 京都国立博物館 平成知新館(1F-4・6)

\*会期中、一部の作品は展示替えを行います。



備前守兼光 新州在任御守国比作(天正十九年二月首)  
備前守氏宗 京都国立博物館蔵  
備前守兼光 新州在任御守国比作(天正十九年八月日)  
松井春徳氏寄贈・京都国立博物館蔵

同時開催  
特別公開  
名刀再臨 — 時代を超える優品たち —

Rediscovered Swords: Masterful Blades that Transcend the Ages January 2-March 23, 2025

2025年1月2日[木]—3月23日[日] 会場 京都国立博物館 平成知新館(1F-5)

\*会期中、展示替えを行います。

開館時間 午前9時30分—午後5時 \*全曜日午後8時まで開館 \*入館は各場30分前まで 休館日 月曜日、12月29日[日]、2025年1月1日[水祝]  
\*ただし、1月13日[月祝]、2月24日[月・休]は開館し、1月14日[火]、2月25日[火]休館  
観覧料 一般700円 大学生350円 \*高校生以下および満18歳未満、満70歳以上の方は無料 \*障害者の方とその介護者1名は無料となります 障害者手帳などを提示ください。  
\*キヤンパスメンバーズ(含教職員)は、学生証または教職員証を提示いただくと、無料となります \*上記観覧料にて、当日の名品ギャラリー(平常展示をすべてご覧いただけます。  
アクセス 〇JR 近鉄 京都駅下車、駅南口より徒歩3分 \*京阪電車 七条駅下車、東へ徒歩7分  
〇市バス 博物館 三十三間堂下車、徒歩3分 \*または東山七条下車、徒歩3分 \*本館はなるべく公共交通機関をご利用ください。駐車場は有料となっております。

重要文化財 大刀 備前守兼光御守兼作 松井春徳氏寄贈・京都国立博物館蔵  
(1月26日、2月24日展示)

京都国立博物館 東山七条  
KYOTO NATIONAL MUSEUM  
京都市東山区茶屋町527 お問合せ 075-525-2474(フ) 075-525-2475(テ)レホンヤード  
<https://www.kyohaku.go.jp/>



# 特集展示 新時代の山城鍛冶 — 三品派と堀川派 —

2025年1月2日(木)―3月23日(日) \*会期中、一部の作品は展示替を行います。  
会場 京都国立博物館 平成知新館(1F・4・6)

慶長年間(一五九六―一六二五)を境に、それ以前に作られた刀剣を「古刀」、それ以降に作られた刀剣を「新刀」と呼び習わしています。新刀は戦乱で荒廃した京都が復興する過程で生まれ、その後全国へと展開し、鎌倉時代に次ぐ刀剣の黄金期を迎えました。この展示では新刀期の山城鍛冶の双璧をなす三品派と堀川派の名品を紹介いたします。華やかでエネルギー溢れる新刀の魅力をご堪能ください。

また、三品派の流れを汲む陸奥守吉行が手掛けた坂本龍馬所用の刀も展示いたします。当館での展示は二〇一八年の特別展「京のかたな 匠のわざと雅のこころ」以来となりますので、こちらもぜひご覧ください。

三品派 重要美術品 刀 陸丹波守吉道 京都国立博物館蔵

## 三品派とは

美濃国関鍛冶にルーツを持つ刀工集団のうち、関七流室屋派の流れを汲む陸奥守大道を祖とし、天正から文禄頃に京都へ移住してきた派をその姓から三品派と呼称しています。特に、大道の子である伊賀守金道・和泉守金道・丹波守吉道・越中守正俊らは名工の誉れが高く、多くの名品を残しています。三品派は個々人の製作技術の高さのみならず、組織として既存の権力構造に上手く寄り添い、朝廷や寺院が出入りの商工業者・芸能者に授ける非公式な官名・受領名の窓口を手に引き受けることで、大流派となりました。代々の伊賀守金道はこの特権を背景に「日本鍛冶惣匠」を名乗って全国の刀鍛冶の頂点に君臨したのです。名と実のどちらも窺うまことに京都市的な流派と言えるでしょう。

## 堀川派とは

日向国出身の国広は九州から関東まで諸国を遍歴した人物で、慶長初年頃に京都・条堀川に居住したことから彼の門流を堀川派と呼びます。上洛前に陸奥守大道と知己を得、合作(短刀 銘濃州岐阜住大道/信濃守国広)したのち二人は相次いで京都へ上り、それぞれが時代を牽引する大勢力の中心となりました。この巨匠二人の邂逅こそが新時代の山城鍛冶を生み出したと言っても過言ではありません。

上京時期が晩年であったため、堀川派としての活動は三品派ほどの規模を持ちませんが、最末期の門人である和泉守国貞・河内守国助が国広の没後に大坂へ移住し、大坂新刀の礎を築きました。

三品派 刀 銘吉行(坂本龍馬所用) 坂本龍馬大邸氏寄贈・京都国立博物館蔵

## 同時開催／特別公開 名刀再臨 — 時代を超える優品たち —

2025年1月2日(木)―3月23日(日) \*会期中、展示替を行います。  
会場 京都国立博物館 平成知新館(1F・5)

重要文化財 太刀 陸奥中以下切 松井秀雄氏寄贈・京都国立博物館蔵  
(2月26日―3月23日展示)

この度、京都国立博物館は重要文化財の刀剣三口を含む貴重な文化財の寄贈と寄託を受けました。これら三口の重要文化財は、日本刀の主要産地である山城・備前・備中を代表する名工の作品であるにもかかわらず、いずれも半世紀近く、一般に公開されたことのない知られざる優品です。

当館ではこの再発見を記念し、新春の名品ギャラリーで特別公開を行います。展示を通して我々国立博物館が行っている文化財保護活動と、国民の宝である文化財の素晴らしさをお伝えできれば幸いです。

### 「関連土曜講座」

2月1日(土)「新時代の山城鍛冶 — 三品派と堀川派 —」  
2月15日(土)「名刀再臨 — 時代を超える優品たち —」

講師 末兼俊彦(当館主任研究員)  
\*平成知新館講堂にて午後1時30分―3時に開催。定員200名、聴講無料(ただし、当日の観覧券が必要)。\*当日午前9時30分より平成知新館1階インフォメーションにて整理券を配布し、定員になり次第配布を終了します。